



園芸作物栽培に関する

これからの対策
と
Q & A

今年の梅雨は地方によっては豪雨となりました。本県は空梅雨傾向となり気温の高い日が続いていきます。気象庁の7～9月の3ヶ月予報では、例年より気温は高く8月は降水量も少なめとしており厳しい気象となりそうです。

◎夏野菜の管理
○防除

夏野菜も収穫終盤となっております。今年ハムシ科野菜につくウリハムシの被害が多発しました。5月頃でも特集しましたが、幼虫が茎に食い込み株枯らししてしまう被害がかなり見受けられました。8月末までは被害が発生する恐れがあります。特に7月植えのキュウリは他のウリ科野菜がなくなってくるので集中攻撃を受けやすくなります。難防除害虫ですがコテツフロアブルが比較的有効なようです。

高温下ではダニ・アブラムシの発生も多くなってきました。家庭菜園ではできるだけ多くの野菜に使用して、しかも効果の高い農薬が求められます。

○水やり

水やりは最も難しい技術で肥料の効き具合も水やりに大きく影響されます。私たちが作っている野菜も人と同様な感覚を持っているかと思ってください。やはり暑い日には水は多めに与えます。水やりの主なポイントをまとめてみました。



周りは水あたりが少なくなりやすく発芽不揃いの原因となります。均等な水やりをしましょう。

アブラムシ防除剤で適用作物の多い農薬
(散布に際しては使用内容を必ず確認してください。)

(顆粒水溶剤) スタークル、モスピラン、アルパリン、アクタラ
(水溶剤) トレボン、モスピラン、ダントツ
(乳剤) マラソン、トレボン など

☆水量は天気の場合に応じて適宜増減する。
☆灌水した水がどの程度浸み込んでいるかを確認する癖をつける。
☆水やりは概ね8時頃までに終える。一日一回の場合は朝に行う。乾燥の激しい日は夕方にも行いますが日中の水やりはできるだけ避ける。
☆ホース灌水するときは出だしの水が熱水になっていることがあるので注意する。
☆ナス、サトイモは特に水分の要求量が多いので意識して多めに与える。

◎圃場管理
○敷きワラ

盛夏期は直射日光が地面にあたり、地中温度が急激に上昇し根の機能を損なうので敷きワラなどをして地温の抑制を図る。

○整枝
混み合っているところの莖葉を除去し風通しを良くしてやります。

◎秋野菜の準備と定植

○育苗

秋野菜の育苗は7月中旬からキャベツ、ブロッコリーで始まり8月に入ると白菜、お盆頃からタスガ始まります。この時期は年間でも最高温乾燥の時期にあたりますので、育苗の培土量が少ないほど管理は難しくなります。家庭菜園では72穴のペーパーポットか6cm以上のポリポットで育苗をお奨めします。育苗トレイは128穴のものが良く使われますがこのポットを利用する場合、快晴日には1日に3～4回は灌水しなければなりません。ちょっとした油断で萎れさせてしまいます。また、用土も黒っぽい土は直射日光を浴びると土の温度が上がりがやすく、種が煮えたり

根がゆだたって枯れる原因となります。午前10時頃までの日光なら良いのですが、日中は木漏れ日程度の光線管理を心がけてください。こうした高温による影響を避けるため、白いトレイや、育苗土表面にパーライトなど白い資材を使う方法もあります。

○圃場準備

8月下旬に入ってくると秋野菜の定植が始まります。したがって圃場準備は盆明け以降に行います。手順としてはまず石灰を施し荒起しをしておきます。その後降雨を待って、施肥・施薬を行い畝立てします。近年温暖化の影響でネキリムシやキスジノミハムシなど土壌害虫の発生が多くなってきたりダイアジノン粒剤やフォース粒剤などの土壌処理剤の使用は欠かせなくなっています。

○植え付け

晴天日は夕方方の植え付けをしましょう。マルチをする場合はアブラムシなど害虫の嫌うシルバーボリの使用もお奨めします。黒マルチを使う場合は、植え付けた野菜の葉が黒マルチに接しないようにしなければなりません。苗の根元にワラなどを挟み込むことも有効です。植え付け時にたっぷり水を与えておきましょう。活着するまでは水やりは欠かせません。

ネギ類は排水が良くないとつみく育ちません。溝植えとしますが排水の良くない畑では排水によって根が腐ってしまう。溝植えは排水のかなり良い所で行いましょう。

○害虫防除

秋野菜はアオムシ、ヨトウムシ、アブラムシなど害虫が多く、この植え込みになりますので、シエイエース粒剤やベストガード粒剤などの植え穴処理剤も励行してください。

○除草対策

ラウンドアップやバスタなど多くの除草剤は基本的に100倍液で使用しますが、1a当たり原液で約50ccほど(希釈液で5ℓ)散布します。散布は除草剤用のノズルを装着した加圧式の噴霧器を使い、薬液調整に際して除草剤用の展着剤を混用することにより効果はより高まります。な



排水不良畑に溝植えされた雨の日のネギ

◆お奨め商品 「家庭園芸用小袋」

JAでの肥料販売は主に20kg袋ですが、家庭菜園向けとして従来の規格に加えて5kg入り的小袋を取り扱っています。袋のデザインも大袋と同じとなっています。なお、ご利用サービスとして「上手な野菜の作り方」という小冊子も希望に応じて配布しておりますのでご利用お願いします。



小袋陳列棚



配布中の冊子

お、スギナやジユウヤクなど多年草は25～50倍の濃いめの液でないと枯殺は困難となります。
○堆肥の利用について
丹南地域ではなかなか優良な堆肥の入手は困難となっています。半生や乾燥させただけの畜糞はEC(塩類濃度)が高いので、幼苗やダイコンなど直播野菜の根が傷んだり害虫が寄りやすくなるなど害の方が多くなっています。こうした堆肥は一旦堆積して切り返しを行い醗酵を促進するかまたは、秋作終了後、直ちに施用し土壌混和して春作に備えるようにしましょう。

キスジノミハムシの被害
成虫はモスピラン顆粒水溶剤やスタークル顆粒水溶剤の散布、幼虫は土壌処理剤で対応します。



成虫 成虫による食害 幼虫による食害

セスジズメ防除
サトイモの葉を食いつくすこともある大型のイモ虫で登録農薬もありません。幼虫が小さい間ならヨトウムシ防除剤のプレバノン顆粒水和剤などが有効と思われませんが、大きな個体はつまみ取るしかありません。



バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499